

どうすれば よかつたか？



映画上映&対談

(監督: 藤野 知明 氏、精神科医: 土屋 潔 氏)

日時 2026年8月22日(土) 13時～15時50分 (12時30分受付 13時開会)

会場 苫小牧市文化交流センター「アイビープラザ」

(苫小牧市本町1丁目6番1号)

入場料: 無 料 (入場にはチケットが必要になります)

お問い合わせ: 特定非営利活動法人ラポルト事務局
TEL: (0144) 56-5673 e-mail: rapporte@therap.or.jp

共同主催: 社会福祉法人せらび後援会、特定非営利活動法人ラポルト

協 催: 東胆振圏域地域生活支援拠点事業「福祉人材育成講座」

後 援: 苫小牧市・白老町・厚真町・安平町・むかわ町・北海道苫小牧保健所・社会医療法人こぶし・医療法人奏和会
医療法人社団玄洋会・社会福祉法人せらび・NPO法人もなみ会

姉の病気を認めないことで成立する「家族」のあり方。おそらく多くの機能不全家族にも通じる矛盾であり、その矛盾をはつきりとカメラに残したドキュメンタリーである。

インベカチリ★

写真家、ノンフィクション作家

映像はふるえている。

目もくらむ年月を重ねたままならない日々と家族が、そこにうつっている。求めることができなかった助けの音が、問いのかたちとなって社会に手渡された。

映像を観たいま「あなたたちはこうすればよかった」ではなく「わたしたちはどうすればよかったか」という思いが離れない。

永井玲衣

哲学者

カメラを持った男——弟であり息子でもある彼は、

「撮る」ことでいかに自らの家族と、

そして世界と切り結ぼうとしたのか。

記録されることがなかったかもしれない場所で、

「ともちゃん」と呼ばれる男から、

人間探究の目が立ち上がってくる。

我々はこの目の発動を映画と名付けているのではないか。

カメラの前で老いた父親と真っ直ぐ向き合う藤野知明監督の姿が、

この映画の決定的な余韻として残っている。

森直人

映画評論家

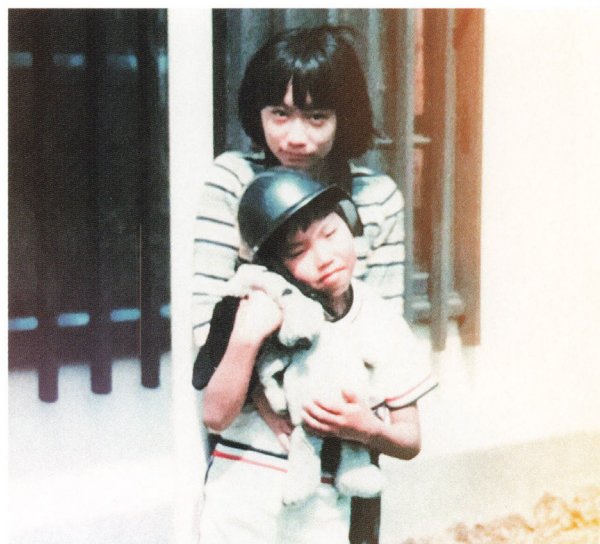
家族という他者との20年にわたる対話の記録

面倒見がよく、絵がうまくて優秀な8歳ちがいの姉。両親の影響から医師を志し、医学部に進学した彼女がある日突然、事実とは思えないことを叫び出した。統合失調症が疑われたが、医師で研究者でもある父と母はそれを認めず、精神科の受診から姉を遠ざけた。その判断に疑問を感じた弟の藤野知明（監督）は、両親に説得を試みるも解決には至らず、わだかまりを抱えながら実家を離れた。

このままでは何も残らない——姉が発症したと思われる日から18年後、映像制作を学んだ藤野は帰省ごとに家族の姿を記録しはじめる。一家そろっての外出や食卓の風景にカメラを向けながら両親の話に耳を傾け、姉に声をかけつつけるが、状況はますます悪化。両親は玄関に鎖と南京錠をかけて姉を閉じ込めるようになり……。

20年にわたってカメラを通して家族との対話を重ね、社会から隔たれた家の中と姉の姿を記録した本作。“どうすればよかったか？”正解のない問いはスクリーンを越え、私たちの奥底に容赦なく響きつつける。

分かりあえなさとともに生きる、
すべての人へ向けた
破格のドキュメンタリー。



dosureba.com X dosureba_film

言いたくない 家族のこと

面倒見がよく優秀な姉に統合失調症の症状が現れた

父と母は玄関に南京錠をかけ、彼女を閉じ込めた